



▼吉田神社本殿
(吉田神社提供)



さいじょうしよだいげんぐう
▲斎場所大元宮 (吉田神社提供)

現在、斎場所大元宮は吉田神社境内の社の一つですが、戦国時代の頃はここで吉田家が祈禱をおこなったとみられます。

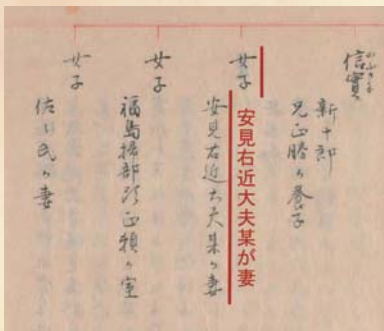
古文書から見た 戦国合戦

～私部城を巡る攻防～

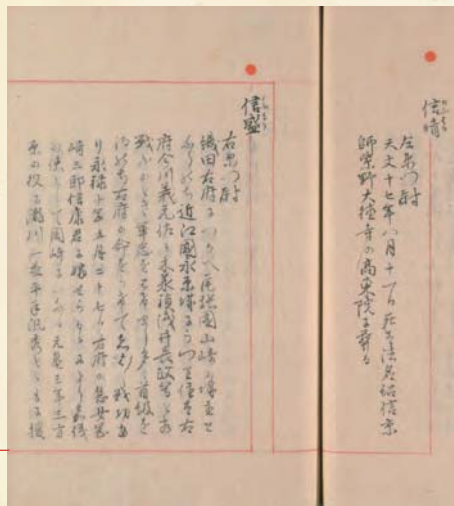


第6回は、安見右近の妻と息子について紹介します。織田信長の重臣、佐久間信盛の娘である右近の妻。名前はまだ文献では確認できていませんが、彼女自身は何度か史料上に登場します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893-8111)



かんせいちようしゅうしよかふ
佐久間氏の系図『寛政重修諸家譜』
(国立国会図書館蔵)



吉田神社と右近の妻子
現在も京都に続く吉田神社の当時の神主、吉田兼見の日記に、右近の妻や子の記事があります。
まず、天正7年(1579)5月4日の記事に、右近と妻の間に新九郎という息子がいたと書かれています。

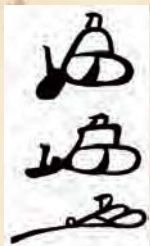
次に右近の妻が出てくるのが天正8年1月11日の記事です。兼見は、怪異(妖怪や幽霊をはじめとする奇妙な現象)退治の専門家家で、安見家で雌鶏が雄鶏のように鳴く「怪異」があり、家中が混乱したため祈禱を依頼したと書かれています。

現代では、鶏の鳴き方くらいで、そこまでの事件とは思えませんが、兼見もこの怪異には特別な祈禱を行う必要があると言っており、当時の人たちは大事件と恐れていたことが伺えます。

また、同年2月29日には、右近の妻が「子息十歳」の病気を治すために祈禱を依頼した様子が記されています。

当時は数え年で年齢を数えるので、この子息は右近が死んだ元亀2年(1571)に生まれたこととなります。この時の記事では「子息」としか書かれていないため、この子息は新九郎のことなのか、他にも息子がいたのかは分かりません。

なお、右近の死後に城主、または代理として私部城を治めたのは、安見新七郎という人物です。彼についてはまた来月号で紹介いたします。



佐久間信盛の花押

佐久間氏と交野

佐久間信盛は、信長の重臣として多くの戦で活躍しましたが、総大将を任された本願寺との戦いで本願寺を攻略できなかったため、天正8年10月に謹慎を命じられ、その2年後に死去します。

この事件により、通常なら家は没落していくのですが、信盛の息子の甚九郎は、許されて織田氏や豊臣氏に仕えることになりました。

また、文禄慶長の役のときには、「きさいべ」(現在の私部)で軍用船の大鉄砲を作っているという話もあり、佐久間氏と交野は深い繋がりがあったようです。

コラム

